

2 0 2 6 年度

事 業 計 画

自：2 0 2 6 年 4 月 1 日

至：2 0 2 7 年 3 月 3 1 日

2026年度（令和8年度）事業計画書

公益財団法人大阪ユースホステル協会では、2026年度も「青少年の健全育成」に向けた活動に積極的に取り組んでまいります。平等な機会を整え、差別が起こらないプログラムや事業を提供、生涯学習を支援し、SDGs視点や防災・減災の観点をもったプログラムなども提案してまいります。

各々違う立地・特色をもった4施設の各々の強みを活かしながら、かつ大阪ユースホステル協会としての総合力を発揮し、「利用者に親しまれ必要とされる」施設として一層の努力をしてまいります。

基本方針

1. 青少年育成の取り組み

4施設において各種主催事業や青少年事業を通じて、ユースホステル運動の推進と青少年の健全育成に取り組んでまいります。また、日本ユースホステル協会・近畿ブロックユースホステル協議会と連携して青少年対象事業を共同企画・広報強化に取り組みます。

2. 利用者ニーズに沿った事業・施設運営

現在利用の中心となっている学校団体や青少年団体またスポーツ団体の為の活動・宿泊施設として、また社会人団体・企業団体の研修施設として、さらには国内外からの旅行者のための快適な宿泊滞在施設として、より一層満足度向上を目指します。利用者にとって快適なサービスを提供し「ユースホステル」「大阪」の魅力を存分に感じていただけるよう改善・工夫を重ねるとともに、利用者の安心・安全を最優先に計画的に施設の整備・改修・修繕をすすめていきます。

3. 新たな取り組みの開始

刻々と変化する社会情勢および利用者ニーズを敏感にとらえ、しっかりと反映した新たな企画を提案してまいります。また国内外から来阪する利用者に対して満足度が高いサービスを提供し、リピーターの獲得や口コミによる評価の拡がりを目指します。

協会内の体制としては、活動する意義・目的を周知徹底することで職員の活動に対する積極的な取り組み姿勢を促進します。また健全かつ活発な職場づくりを目指して、働き方改革を推進し就業規則や人事制度の見直しを実施いたします。

事業計画

1. ユースホステル運動

ユースホステルおよび青少年施設の管理運営、及びそれらを拠点とした事業実施を通じて、ユースホステル運動の目的である青少年の健全育成に取り組めます。また、ますます増加が見込まれる訪日外国人の利用促進をはかり、国際交流の担い手として力を発揮します。

2. ユースホステル協会の運営と事業展開

管理運営している4つの事業部（ユースホステルおよび青少年施設）のさらなる発展のために、従来からの利用者を大切にするとともに新たな顧客層の開拓を行うとともに、万博特需の後、実績を大きく落とすことなく運営するため、様々な手を打ってまいります。

世間の例に漏れず人手不足は否めませんが、新入職員の育成および既存職員の多能化に力を入れ、IT化もさらに推し進めます。

（1）組織運営と魅力の向上

- ① 職員の新規採用
- ② 業務の効率化（IT化とペーパーレス化の推進）
- ③ 職員の処遇改善と多能化およびスキルアップのための研修等諸策
- ④ 働き方改革に基づく就業規則・人事制度等の見直し
- ⑤ ボランティアリーダーの募集と育成
- ⑥ 新規事業の開発やアイデア創出を現場スタッフに託し、やりがいのある職場を構築します

（2）地域・行政・機関との連携

- ① 日本ユースホステル協会との連携と相互協力
- ② 近畿ブロックユースホステル協議会の一員としての活動
- ③ 大阪府・大阪市など指定管理委託者との調整
- ④ 関係各機関との連携と相互協力
 - ・ 青少年活動団体・野外活動団体・子ども会・青少年施設
 - ・ 運動に理解のある企業・団体・組織等
- ⑤ イベントへの参加・出展
 - ・ モンベルフェアや大阪市こどもカーニバルなど
- ⑥ 大阪府観光局との連携（資料提供・広報・研修会・商談会等）

- ⑦ 大学ユースホステルクラブの活動支援と相互協力
- ⑧ 地産食材を活用した食事メニューの開発と提供

(3) 利用促進・広報活動

- ① 4施設で連携した大阪ユースホステル協会全体としての営業・広報
- ② SNS等に活動を発信している各種スポーツ・文化団体に、合宿や遠征の利用を促す直接的なアプローチ
- ③ 統一された宿泊予約システムによる各施設間の相互連携と送客

(4) 事業の企画と実施

① こども事業

各施設をベースに、その環境・立地・プログラムを活かした子どもおよび子どもを含む親子を対象とした事業を実施するとともに、それら指導者の育成事業も行います。

② ウォーキング事業

大阪府下にコースを設定した参加しやすいウォーキング事業を3回予定しています。

③ 社会貢献事業

主に各施設周辺の住民の方々に施設開放を行う「オープンデー」の実施の他、「キッズカフェ（子ども食堂）」の一層の定着化を行います。また、日本ユースホステル協会が推進する「全ての子どもに旅を贈ろう」というチャリティー企画を賛同する複数の主要なユースホステルと歩調を合わせ継続実施をします。

④ 会員サービス事業

- ・旅行相談会
- ・新大阪ユースホステルおよび大阪市立長居ユースホステルをベースに、海外からの旅行者に向けたインフォメーション活動や日本文化の体験活動を実施

3、新大阪事業部(大阪市立青少年センター・新大阪ユースホステル)

昨年度に引き続き、当施設の特徴を生かし、宿泊・貸室・食事と三位一体となった施設運営を推進することで、より利用しやすい施設・完結できる施設を目指すと同時に、利用増を図ります。

文化ゾーン（貸室部門）においては、新たな利用者の開拓のため広報に力を入れるとともに、ホールや録音設備のあるスタジオの利用増進により力を入れます。特に録音利用については、デモ録音の増加のための企画を作成、WEBサイトに専用ページを設置します。また、より利用しやすい施設を目指し、継続的に設備備品、付属設備を更新し充実させてまいります。

宿泊ゾーン（新大阪ユースホステル）では、貸室と宿泊の併用利用の促進に力を入れ、団体旅行や教育旅行を取扱う旅行代理店やインバウンド専門のエージェント等への営業活動を継続し、学校のクラブ合宿等の誘致に継続して取組むとともに、定期利用につなげてまいります。また大阪や近隣府県で行われるスポーツの大会や音楽・文化活動などをリサーチし、SNSなども活用し営業活動を行います。また個人や家族を対象にした宿泊プランの開発にも力を注ぎます。

ココカフェについてはヴィーガン、グルテンフリー等に対応した食事の開発やランチおよび夜の貸切利用などの周知と販売強化、ステージを活かしたライブをはじめ、食事提供施設を有効活用した飲食可能なイベントやセミナー等の会場としての利用促進に努めます。人数や内容によりカフェとユースホステルの食堂の同時稼働や使い分けで機動力をあげます。

館内のLED化を完結させるなどメンテナンスを進め利用者の満足度も上げながら、固定費の削減にも取り組みます。

(1) 施設の管理運営と魅力の向上

- ① アンケートや聞き取り調査による利用者ニーズの把握と、それに伴う設備・備品の更新とサービスの向上
- ② 録音利用に向けたプランの発信
- ③ 宿泊パッケージプランの継続と新規プランの開発
- ④ 魅力ある宿泊者向けのイベントの開発と開催
- ⑤ 宿泊・貸室・カフェを相互補完するパッケージの開発
- ⑥ 全館LED化による経費節減

(2) 地域・行政・機関との連携

- ① 施設の市民開放イベント（KOKO 秋フェスティバル）の実施
- ② 地域の祭り（夏・秋・春）への出展と運営協力
- ③ 小学校の職業体験・特別支援学校の体験学習等の受入
- ④ 大阪市社会福祉協議会やフードバンクとの連携

(3) 利用促進・広報活動

- ① 併用利用の強化・促進（宿泊と会議、合宿、研修など）
- ② 大阪市広報誌「いちょう並木」への掲載
- ③ こども対象事業を周辺小学校や公共施設にチラシ等で周知
- ④ ホームページや SNS による広報
- ⑤ 宿泊パッケージプラン
 - ・小中学生応援宿泊パック・家族&グループプラン・夜行バスプラン・ライブ&観劇応援プラン・スポーツ観戦プラン等
- ⑥ 日本ユースホステル協会や近畿ブロックユースホステル協議会を通じた広報
- ⑦ 合宿検索サイトに掲載
- ⑧ 年に3回、近隣の公共施設への施設案内、事業案内の DM 送付

(4) 事業の企画と実施

- ① こども・青少年対象事業
 - ・ここぷらキッズイベント 年間を通じ6回
 - ・KIDS DANCE（初級・中級） 通年
 - ・七夕（短冊に願いを記し笹に飾る） 7月
- ② 家族対象事業
 - ・キッズカフェ（子ども食堂） 月4回
- ③ 一般対象事業
 - ・うたひろば 隔月
 - ・カルチャー教室（ピアノ教室ほか） 通年
 - ・KOKO落語会 隔月
 - ・フォークソングナイト 隔月
 - ・相手に伝わる表現を習得するワークショップ 毎月
 - ・KOKO de CONCERT 年間を通じ3回
 - ・KOKO秋フェスティバル 10月
 - ・サンクスギビングフェスタ（施設練習利用者の発表会） 3月
 - ・年末年始イベント（宿泊者対象） 12・1月

(5) 利用獲得目標

	2026年目標	2025年見込	2018実績
貸室(文化ゾーン)	167,000人	159,000人	243,850人
稼働率	46%	43%	
宿泊(新大阪ユースホステル)	19,000人	19,900人	20,412人
稼働率	42%	44%	
ココカフェ(売上高)	10,850千円	8,000千円	26,830千円

4、羽衣事業部(大阪国際ユースホステル・羽衣青少年センター)

利用促進へ向けて、団体宿泊利用・野外炊さん場・研修室の利用増を重点目標として取り組みます。従来の利用者層のみならず、未来志向で新たな需要の開拓を行うため、炊さん場のオンライン予約の導入・合宿予約サイトへの掲載・SNSを利用した広報を推進します。

また施設の特性を生かし、近隣施設やボランティアとの協働、ユースホステル・青少年センターならではの体験活動の提供、社会貢献事業への取り組みなどを行うとともに、前年度は不本意ながら実施できなかった子ども事業・親子事業にも力を注ぎます。

施設の管理面では、開業から29年経過し目立ち始めた老朽化への対応が必要となってきました。修繕や更新を行うにあたっては、新たなニーズの開拓や、今後の青少年施設のあり方や可能性を探ることも念頭に進めてまいります。

また、働きやすい職場作りへのアプローチとして、労働時間の見直しと生産性の向上のため、ルーティーンワークの見直しと効率化、外部研修への参加も含めたスタッフのスキル向上のための取組を行います。

(1) 施設の管理運営と魅力の向上

- ① 新たな宿泊予約システムの導入
- ② 炊さん場予約にOTA(オンライントラベルエージェンシー)の導入
- ③ 高圧受電設備のオーバーホール(5か年計画の4年目)
- ④ 施設照明のLED化推進
- ⑤ 館内防犯カメラの入替
- ⑥ 宿泊棟洗面台の排水管の交換
- ⑦ アンケートや聞き取り調査を通じた利用者満足度向上への取組み
- ⑧ オリエンテーションやポスター掲示等による節電・節水等を啓発
- ⑨ 新規ボランティアの募集と育成

(2) 地域・行政・機関との連携

- ① 浜寺公園をはじめ近隣の各種施設、高石市等行政機関との連携による事業やイベントの実施と情報交換
- ② 近隣小学校の街探索(見学)の受け入れ
- ③ 近隣の大学と連携した事業の実施

(3) 利用促進・広報活動

- ① 学校やインバウンド団体へ定期的な誘致営業の継続
- ② 過去利用団体の再利用に向けた営業活動の継続
- ③ スポーツ団体誘致活動の実施

- ④ SNSを活用した広報活動の継続
- ⑤ 公園利用者をターゲットにした日帰り食事提供
- ⑥ 高石市教育委員会の協力のもと、青少年育成会等での広報活動
- ⑦ 地域の魅力や観光情報発信による利用増への取り組み

(4) 事業の企画と実施

- ① こども対象
 - ・はごろもキッズキャンプ 3月
 - ・キッズクッキング 1～3月 3回×1コース
- ② 家族対象
 - ・アウトドアクッキング 6月
 - ・親子で流しそうめん大会 9月
- ③ 成人対象
 - ・教室事業
 - (ヨガ・ピラティス) 24教室
 - ・歌レク 8月を除く毎月
 - ・はごろも寄席 6月
- ④ 地域と連携した施設開放の事業
 - ・羽衣青少年センター文化祭(仮) 11月
- ⑤ 宿泊者を対象とした事業
 - ・大晦日の宿泊イベント 12月
 - ・もちつき 2月
- ⑥ 食堂を利用したイベント
 - ・日本酒のすすめ 2月
- ⑦ 大阪ユースホステル協会としての取り組み
 - ・SAY HI FOR PEACE 事業(日本ユースホステル協会との連携) 12月

(5) 利用獲得目標

	2026年度目標	2025年度見込	2018年度実績
羽衣青少年センター 稼働率	100,000人 18%	94,000人 16%	133,814人 25%
大阪国際ユースホステル 稼働率	20,300人 27%	19,700人 26%	24,140人 31%

5、貝塚事業部（大阪府立少年自然の家）

少年自然の家は、4期目（令和8年度～令和17年度）の指定管理が決まりました。利用者の期待に応え、ますますの発展を期し、鋭意前向きな運営を行ってまいります。

施設の特徴を最大限に生かすため、これまで同様、学校団体を中心に、青少年団体や文化・スポーツ団体などに対して積極的な働きかけを行うとともに、これまでの枠にとらわれず、企業研修や海外からの利用他、新たなニーズにも対応してまいります。

事業では、幼児から大人まで幅広い世代を対象に展開し、内容の充実を図っていきます。参加者が成長を実感できる事業として定評のある『フォレストジュニアクラブ』『もりのこクラブ』、長期自然体験活動である『こどもワイルドキャンプ』『中高生チャレンジキャンプ』をはじめ、家族やグループ利用を対象とした土日祝の『お泊りパック』についても継続します。また指定管理者の新たな取り組みとして位置付けられた『課題を抱えた青少年への支援事業』についても準備を進め、関係機関との連携を深めながら、社会的意義の高い事業にいたします。

今冬には大阪府による大規模改修が予定されているため、約1カ月は休館となります。このため稼働可能な期間に利用希望者を案内し利用の減少とならないよう意識した運営を行うとともに、職員研修等の機会として有効活用いたします。

（1）施設の管理運営と魅力の向上

- ① 森林・登山道・テントサイトなど屋外施設の整備と充実
- ② 更新を迎えた屋内施設・設備の整備（老朽化部分は大阪府と協議の上行う）
- ③ アンケートや聞き取り調査を通じた利用者満足度向上への取り組み
- ④ 実施事業や利用者支援を行うボランティアリーダーに対する定期的な研修など、スキルアップのためのサポート体制の確立
- ⑤ 顧客満足度アップを図るための新規アクティビティの導入
- ⑥ HACCP基準に基づく食堂の衛生管理
- ⑦ 食事メニューの更新および多様な食事ニーズへの対応（アレルギー・摂食障がい・宗教や信条による禁忌など）
- ⑧ 食堂設備改善による大量調理の効率化とエネルギーコスト削減

（2）地域・行政・機関との連携

- ① 出前講座の実施による施設外における体験活動の推進
- ② 学校・行政・地域（公民館・子ども会等）への講師派遣
- ③ 大学生のインターンシップの受入
- ④ 障がい者の就労実習の場を提供
- ⑤ 「貝塚自然遊学館」「いぶきヴィレッジ」など近隣諸施設との連携

(3) 利用促進・広報活動

- ① Instagram や LINE などの SNS、YouTube 等動画プラットフォームを利用した配信による施設の紹介や魅力の発信
- ② 学校・旅行代理店の教育旅行部門・インバウンド受入を取り扱う旅行エージェントへの営業活動や、専門サイトへの登録・掲載
- ③ ホームページの最新イベント情報の掲載、SNS による情報発信等によるフォロワー増への取組み

(4) 事業の企画と実施

- ① 子ども対象
 - ・ もりのこくらぶ 年間を通じ 4 回
 - ・ フォレストジュニアクラブ 年間を通じ 4 回
 - ・ こどもワイルドキャンプ 8 月
 - ・ 中高生チャレンジキャンプ 8 月
- ② 家族対象
 - ・ 親子 de しぜんのようちえん 年間を通じ 4 回
 - ・ ファミリーキャンプ 10 月
- ③ 指導者養成
 - ・ 野外活動指導者講習会 1 月
- ④ 知的障がいのある子どもの支援
 - ・ 障がい者向け事業 10 月
- ⑤ 対象や年齢を限定せず府民が気軽に参加できるイベント
 - ・ ホタル観賞の夕べ 6 月に 2 回
 - ・ 流しそうめん体験 8 月に 9 回
 - ・ ダッジオープンで野外料理にチャレンジ 11 月
 - ・ 焚火を楽しもう 12 月に 5 回
 - ・ 宿泊パック 年間 6 回程度
- ⑥ 野外活動と他分野の融合
 - ・ 絵本に登場する料理を作ろう 5 月
 - ・ えほんのひろば 2 月
- ⑦ 大人向けの自然体験活動
 - ・ おとなのえんそく 11 月
- ⑧ 地域・行政・企業他との連携事業
 - ・ 課題を抱える青少年への支援事業 9 月
 - ・ 大阪府アドプトフォレスト 11 月
 - ・ 自然の家オープンデー 2 月
 - ・ おおさか元気広場 出前講座 申込みに応じ随時
 - ・ インターンシップ(就労体験)推進事業 申込みに応じ随時
 - ・ 自然の家専属指導者育成事業 年 3 回

(5) 利用獲得目標

	2026年度 目標	2025年度 見込	2018年度 実績
日帰りおよび宿泊利用	90,000人	84,000人	94,290人

＜共同事業体 一般財団法人大阪府青少年活動財団＞

6. 長居事業部（大阪府立長居ユースホステル）

面積に余裕のある客室9室に新たに2段ベッド1組をそれぞれ導入します。これにより定員が18名増となり、部屋割りの柔軟性も拡張します。従来から宿泊需要があるのは週末や学校の長期休み期間など特定の時期に限定され、満室でお断りするケースも多々ありましたが、その機会損失を補い年間で1,200名の利用増を見込んでいます。これにより、より安定した運営を目指します。

営業努力により大阪府下の支援学校の利用が年々増えております。施設スタッフの対応や安全管理の観点から非常に利用やすいと好評です。当年度は支援学校の修学旅行に着目しエリアを広げ、関東以西および九州以東の学校に宣伝活動を行ないます。

支援学校に限らず、長居公園にはヤンマースタジアム見学ツアー・植物園・チームラボ・自然史博物館など、魅力のある施設がたくさんありますので、安心安全な公園内滞在型の旅行プランを提示、展開していく予定です。

(1) 施設の管理運営と魅力の向上

- ① 9室に2段ベッドの追加導入
- ② 掛布団、敷布団、枕を全てリース化
- ③ ゲストルームの冷蔵庫更新
- ④ 宿泊者共用の電化製品の更新（電子レンジ・トースターなど）
- ⑤ 館内スリッパの更新（EVA素材はつまづき易いため）
- ⑥ 館内電気を完全LED化
- ⑦ 食堂の盛り付けプレートの更新
- ⑧ インバウンド団体用にパン食のバリエーション追加
- ⑨ 宿泊利用者がくつろげるスペースの設置

(2) 地域・行政・機関との連携

- ① 長居公園施設全体の運営会議の実施（月 1 回）
- ② 子どもたちだけで作る地域情報誌『うっところ』の完成発表の場として、長居ユースホステルの集会室を提供
- ③ 近隣中学校からインターンシッププログラムの受け入れ
- ④ NPO法人大阪府高齢者大学校と連携し、長居ユースホステルの集会室を会場とした講座を開校し、シニア層への学びの機会の提供
- ⑤ 東住吉警察署と連携し、不審者対策として定期巡回の依頼

(3) 利用促進・広報活動

- ① 支援学校の修学旅行（長居公園滞在型プラン）の誘致
- ② 都道府県に存在するラグビーフットボール協会主催の合宿誘致
- ③ 療術業（鍼灸院や接骨院）の新入社員研修の誘致
- ④ 企業の陸上部や山岳部に福利厚生合宿・懇親会プランの宣伝
- ⑤ 広島で開催される第 19 回日本スカウトジャンボリーの前泊・後泊地として大阪滞在の提案
- ⑥ 自然史博物館の特別展とタイアップした宿泊パックの販売の継続
- ⑦ インバウンド団体の宿泊スケジュールに合わせた、日本文化体験の提供の継続（ユースホステル協会所属のボランティア組織 ISC＝国際奉仕団と連携）
- ⑧ SNS を活用した広報活動の継続
- ⑨ 大阪市広報誌『いちょう並木』、広報東住吉『なでしこ』、東住吉区生涯学習情報誌へのイベント掲載の継続

(4) 事業の企画と実施

① 子ども対象

・ K I D S D A N C E リトルコース	（毎週金曜）	通年
・ K I D S D A N C E キッズコース	（毎週金曜）	通年
・ K I D S D A N C E ティーンコース	（毎週金曜）	通年
・ サッカーキャンプ 2026 冬		年 1 回
・ 飛び込め！絵本の世界		年 1 回

② 一般対象

・ ツボ・優しいヨガ	（毎週木曜）	通年
・ 健康体操ヨガ総合コース	（毎週木曜）	通年
・ R e フレッシュヨガ A コース	（毎週木曜）	通年
・ 健康体操ヨガ A コース	（毎週金曜）	通年
・ 健康体操ヨガ B コース	（毎週金曜）	通年
・ R e フレッシュヨガ B コース	（毎週金曜）	通年
・ ふれあい卓球	（毎週火・金曜）	通年

- ・みんなで歌おう i n 長居 年 4 回
- ③ 食堂を利用したイベント
 - ・長居キッズクッキング 年 4 回
 - ・長居植物園とのコラボ弁当 年 5 回

(5) 利用獲得目標

	2026年度目標	2025年度見込
宿泊利用人数	10,700人	11,500人
稼働率	34.0%	37.0%
集会室稼働率	34.0%	33.5%

＜大阪ユースホステル協会は長居公園共同指定管理者
の一員として「大阪市立長居ユースホステル」を担当＞

以 上